

練馬Press

No.010

第14回ニューイヤーコンサート ～また熱い感動と興奮がよみがえる～

新春恒例の早稲田大学交響楽団によるニューイヤーコンサートが下記の通り開催されます。今回は実績十分なワセオケが渾身の華麗な演奏をすると期待されており、ウイーンの粋を集めた喜歌劇と、オリンピックイヤーにちなんだ古関マーチが、オーケストラならではの迫力で披露されます。

1. 日時 2020年1月18日(土) 17:00開演(16:30開場)

2. 会場 練馬文化センター大ホール

3. 演奏 曾我大介指揮、早稲田大学交響楽団

ソリスト／写真左より、高橋維(ソプラノ)、江口二美(ソプラノ)、吉川健一(バリトン)

4. 曲目 ヨハン・シュトラウス2世／喜歌劇「こうもり」より抜粋

古関裕而／オリンピック行進曲、スポーツショー行進曲

R・シュトラウス／交響詩「ドン・ファン」作品20 ほか

今回のコンサートには地元練馬区民の皆さんばかりでなく、都

内の各稲門会からも多数の参加が見込まれているほか、森喜朗元総理や歴代総長の方々もお見えになる予定です。年明けには会場の練馬文化センターの外壁に、早稲田カラーの巨大な告知用懸垂幕が掲げられ大いにムードが盛り上がるものとみられます。

なお、チケット(指定席A:3500円、指定席B:2500円)の売れ行きは順調で、残席は僅少となっています。お問い合わせ、お申し込みは練馬稲門会コンサート事務局:電話 070-3526-4179 までお願いいたします。



「雑司ヶ谷七福神巡り」を1月6日(月)に開催

新年の開運招福の行事として定着した七福神巡りは都内各所で行われていますが、練馬稲門会は今回「雑司ヶ谷七福神巡り」をすることとしました。

副都心線・雑司が谷駅を起点として大黒天、恵比寿、毘沙門天、吉祥天、弁財天、布袋尊、福祿寿を巡拝し、新年の幸運を祈願します。終点の池袋まで約4kmを2時間程度で歩くコースです。

具体的な計画は近日中に歴史ウォーキング部からお知らせしますが、新年の福を求めながら日頃の運動不足解消をかねて、ぜひ参加されてはいかがでしょうか。

2020「新春の集い」のご案内

練馬稲門会は新春の集いを下記の通り行います。皆さんお誘いあわせの上、ご出席下さい。

日時: 2月22日(土) 17:00～(16:30開場)

場所: ココネリホール

会費: 男性 5,000円 女性 3,000円

(お酒の持ち込み大歓迎!)

第1部: 箏曲、三味線演奏

松浪千紫(2005年人間科学部卒)

「春の海」(箏独奏)、「梅は咲いたか」(端唄)、

「梅の小袖」(上方唄)ほか

第2部: 懇親会

【アトラクション】

練馬稲門会フォークソング愛好会

(文: 照山 忠利)

テニス部会(硬式) 軽井沢の風を受けながら恒例合宿を

我がテニス部会は来年の東京オリンピックの年に創部20周年を迎えます。創部にご尽力いただいた岡本龍蔵元部会長が、節目の10周年記念会(2010年)の時に作成された資料には「2000年9月に5人で旗揚げされた。」と記されています。

19年の時を経て、現在は37名の会員が登録され、月例会、合宿、杉並稲門会との交流試合等の諸活動が熱く行われています。

活動の一例として、今年の合宿は好天に恵まれた10月1日から2泊3日、ベルデ軽井沢(練馬区施設)にて13名の参加のもとに実施されました。「ルールとマナーを守って明るく楽しいテニス」を掲げるテニス部会の合宿は、全員での準備運動から始まり、主戦場を個人の成績を問う部内大会として、心地よい軽井沢の風を受けながら熱戦を繰り上げました。表彰式を兼ねた懇親会では、お互いの試合ぶりを肴に酒を酌み交わし、学生時代を思い起させる盛り上がりを見ることが出来ました。また、公認テニスコーチ(JSPO)の資格を持つ吉井滋先輩による「畳」の上でのワンポイントアドバイス、マナー指導などは合宿ならではの時間となりました。



もうひとつのイベント、恒例の杉並稲門会テニス部との親善交流戦は10月末に杉並ダイヤモンドクラブにおいて、ダブルス6ペア対抗戦が行われました。薄氷ながら我が部が勝利を得て連勝記録を伸ばし、笑顔のハイタッチ光景が見られました。ノーサイド後に行われたお楽しみの懇親会では、持ち込まれた銘酒でお互いの健闘を称えながら美酒を味わうこととなりました。

全日本ベテランテニス選手権で優勝された先輩の在籍を誇るテニス部会ですが、初級者も積極的に参加して楽しんでいるサークルです。これからも稲門テニス仲間を増やし、新入会員と共に活動を充実させたいと思います。

(武田 幸雄)

フォークソング愛好会「楽しいことが一番」 ～青春の日々を歌に重ねて

フォークソング愛好会は早稲田出身者によるフォークバンド(結成時)“DREAMERS”が2016年の練稲初めての新年会にゲスト出演したのをきっかけに、その年の9月に発足したサークルです。それから3年余。現在の会員は当初の20名から33名に増え、男女比も合唱には理想的なほぼ半々の構成となっています。



歌う曲はフォークソングやカントリーソングを中心に誰もが一度は口ずさんだことがある「青春の歌」で、会員のリクエストから毎シーズン(9月～翌8月)10数曲を選曲。今もDREAMERSのメンバーであり当会のリーダーでもある貞末さんの監修と指導で、毎月1回、男女混声ならではのコーラスを楽しんでいます。ひと言で言えば「男女共『楽』のフォークの学校」といったところでしょうか。

年齢は50代から80代と幅広く、シニアには懐かしい青春の歌もジュニアには懐メロのような曲もありますが、リーダーのパーソナリティもあって、シニアもジュニアも和気藹々とした雰囲気のなかで合唱に興じています。それ

ぞれの「青春の日々」への思いが紡ぐハーモニーに癒されるひと時です。そして何よりの楽しみは歌った後の懇親会。ほんの少々の緊張からの解放感と喉の渇きを癒すビールの旨さは格別です。

そんな「楽しいことが一番」の合唱サークルですが、「塵も積もれば……」で(「枯れ木も……」ではありません、為念)、昨年の練稲総会や今年3月の校友会23区支部大会での公演では大好評を博しました。そのステージで味わった興奮と達成感が忘れられず、来年2月の練稲「新春の集い」に再出演します。乞うご期待、です。

歌だけは自信があるという方、歌は余り上手くはないけど歌うのは大好きという方、ご参加をお待ちしています。

(幹事・越智 慎二郎)

六大学野球そしてラグビー

神谷 武利



私は早稲田中学、高校、大学と計10年間、早稲田の地で青春期を過ごしました。

中高時代は家(呉服橋)から早稲田まで都電で片道40分かけ通いました。大学時代は東西線が開通し日本橋から片道20分で行くことが出来ました。中高は精勤賞、大学は1時限も休まず、授業にできました。

お陰様で商学部を22番で卒業できました。ゼミ関係(会計学)をもう少し勉強すれば、順位も上がっていたかもしれせん。

そんな中、高2、3年の受験期、隣の旅館がビルを建設、夕方まで図書館で勉強しました。また大学3年の時早稲田騒動が起き、授業は延期され、大学の危機でした。

私が所属したゼミの奥山章雄君(元日

本公認会計士協会会長、早大教授)が中心になって、革マルと渡り合い終結した。これらの出来事は切ない青春の一コマでした。

今思い起こせば、みずほ銀行(旧勧銀)に就職でき、子会社を含め65歳まで病氣もせず、大過なく勤められたのも、良き友 WASEDAMAN に恵まれ、良き青春時代を過ごされた賜物と思います。

現役時代は、好きな野球、ラグビー観戦もできず、また高3まで理科系の勉強を主にしていたため、配点の少ない歴史は勉強せず、今歴史ウオーキング会に入っていたら、遅まきながら勉強しています。

野球が好きになったのは、小学校の低学年から、早稲田OBの父親に神宮球場に連れて行ってもらったことです。

ラグビーに関心を持ったのは、早中3年の時隣の席の井伏鱒二の息子昇三君が「神谷、野球だけでなくラグビーも面白いぞ」と言われ、エンジと黒のジャージーに惹かれたからです。

このような野球とラグビーの青春時代の出会いが、今なお野球は東京六大学を中心に、ラグビーは早慶戦、早明戦を中心に毎年観戦へと繋がっています。

これからも健康に留意し、スポーツ観戦以外に、歴史、社会情勢、国内外の政治に関心をもち二度と悲惨な戦争をしないよう祈るばかりです。(昭和43年商)

返還前の沖縄船旅の思い出

斎藤 幸子



「対馬」という島は何県のどのあたりにあるかご存じですか？

私は国境の島「対馬」出身。県立対馬高校を卒業し、東京へやってきました。兄も姉も東京にいたので、田舎出身の私でしたが都会の生活にはすぐに慣れました。

ある大学を受験したものの、一次試験にだけは合格し、結局浪人生活寸前となりました。浪人生活をするのには抵抗を感じ、あるミッシヨン系の学校へ行くことを決意。要するにビジネスとか花嫁修業の勉強のための短大でした。

高校時代、体育祭では不思議と早稲田と慶応の替え歌での応援団が出来上がっていました。その縁があったのか、その後早稲田に入学。英文科のなかでも英語文法とか言語学、ケルト文学(尾島庄太郎先生)などに興味がありました。

授業料値上げ反対運動に走る学生、一人ぼつんと読書している人、すぐに仲良くなる男女あり、で、若さゆえの元気な当時は思い出しています。

夏休みには沖縄出身のクラスメイト(男性)のお宅へ女子三人で押しかけ、ご家族の歓待も受けて楽しい一週間を過ごした思い出があります。

沖縄がまだ日本に返還されていなかった1967年頃でした(本土復帰は1972年)。360円時代、パスポートを取得し、鹿児島まで列車で行き、船で沖縄へ渡りました。

先日、椿山荘方面に出かける用事があり、大通りに出たら「リーガロイヤルホテル」が見えたので、ついでに馬場下まで歩き、穴八幡前の正門をくぐり、坂を上がり久しぶりに校舎内に入ってみました。校舎も学生食堂もゆとりある雰囲気変わっていたのには驚きでした。

360円時代といえば、卒業後まもなく、ヨーロッパ2週間、7か国を同じクラスだった女性と2人で旅をしました。沖縄を含めると2度目の海外旅行に出かけることになりました。

元氣であれば、この先も、卒論にかかわりのあったイギリスのサザンプトン、アイルランドのダブリンを訪ねてみたいですね。

練馬稲門会に入会し、新たな出会いや行事を楽しませていただき感謝しています。今後ともよろしくお願ひいたします。

(昭和44年文)

証券市場ドブプリの学生時代

土屋 正孝



私の学生時代は、株式に明け株式に暮れる毎日でした。

所属サークルは「証券学会」、学園紛争当時革マルの拠点があった商学部地下に部室がありました。

午前中、大学で授業がない日は自宅で短波放送を聴きながら株式相場をチェック、登校するとまずは部室に直行し、講義がある時はそこから教室に通い、終わるとまた戻ってきて株式の本を読み漁るという毎日でした。

仲間がご多間にもれず賭け事好きの連中が多く、部室では「チンコロリン（さいころ賭博）」をやり、「面子が集まると雀荘へ」という状況、私は麻雀をやるとカモられるのでほとんど仲間に加わらなかったのですが、奉られて幹事長になったため、証券研究関東学生連盟、全日本証券研究学生連盟の役員を担当、また、3年次には毎年発行している機関誌の編集・印刷の取りまとめに携わり、原稿を書き傍らの広告取りに駆けずり回りました。

た。しかし、資金が足りなくなり卒業後までその印刷代支払いに追われていたことを思い出します。

私の株式との出会いは、父親が存命時（高校3年の時逝去）に株取引をやっており私自身も興味があったこと、亡くなった時にあった株式の端株（単位株は証券会社が勝手に売却し勝手に投資信託を購入）整理に野村證券に向いた際、店頭で偶然にも塚本さんという稲門の先輩が応対してくれて、店頭で設置されていた株価ボード（当時は電光掲示板はなくすべて黒板への手書き）に短波放送を聴きながら時々刻々の株価の値動きを記入するアルバイトを紹介してくれたことでした。

後には営業部で値紙という用紙に全銘柄の時々刻々の値段を記入していく仕事もやりました。そこに、大学が長期休講中（春・夏）や学園紛争でロックアウトされていた時はいつも通っていました。

その当時の野村証券は「ノルマ証券」とも言われ、自分の意に沿わない株式のはめ込み営業や投資信託の押し込み営業をしており、それを間近で見ってきたために証券会社への就職を避け生保会社に入ったのですが、その後33歳から50歳まで証券会社に向向となりました。これも何かの因縁かと思っております。

株式とは今でも腐れ縁で損をしてもなかなか足は洗えません。（昭和45年政経）

サークル(ワンゲル系)合宿

渡部 由利



「学生時代はサークル(ワンゲル系)にドブプリで、夏は2週間、秋、春は1週間ほどの合宿があり、4年まで参加した。

当時の山の道具は現在とは雲泥の差で、雨に濡れるとぐっしよりの帆布製のテントに帆布製のキスリング（横長のザック）。主食は重いお米に、少々押し込んだでも耐えられるフランスパン。夏場はザックの中が蒸れてパンが黴るが、最小限ちぎり除きながら皆で分け合って食べた。水は2Lのポリタンで回し飲み。沢の水なのでごみが多少混ざっていてもお腹を壊したことはなかった。

その中で、何日かに1回は「ワタナベのジュースの素」が入り、甘味の至福を味わえる。硬くなったフランスパンをこのジュースに浸して食べると何ともいえず美味しかった。

このときの美味しさに感動して、東京に戻って思いっきり飲みたい（山では限られた量しか行き渡らない）と作ったが、不味さにかっかりしたという仲間がいた。

合宿も終盤になると食材も乏しくなり、「闇鍋」と称して何でもかんでもおち込んで食すが、お代りに負けじと掻きこむなので、いまだに私はこれが抜けずに早食いである。

合宿には100人くらい参加するので、6パーティに分かれて各コースから最終日に集結するスタイルだった。山頂に集結したり、温泉地に集結したが、必ずキャンプファイアーを囲んで各パーティ毎に出し物をやったり、大声で歌ったりと青春を大いに謳歌したものだ。今も毎年「OB/OG・現役交換会」のパーティを開催して旧交を温めている。

一方、ベトナム戦争、70年安保闘争、東大安田講堂闘争、連合赤軍等々でキャンパスはタテカン（立て看板）が溢れかえっており、アジ（アジテーション）が飛び交っていた。正門前には機動隊も出動して投石などもあり、フリーだったキャンパスにしっかりとした正門ができてしまった。

1年の後期にはロックアウトもあり、デモや新宿西口フォークゲリラなどにも参加したりと、色々と刺激を受けた学生時代を過ごしたと思う。

何にしても同じ大学出身ということ仲間が集える場があることは人生を豊かにし、これに感謝しつつ、練馬稲門会にもお世話になりたいと思います。（昭和47年教育）

ワセダ「釣りの会」で青春を謳歌

松浦 康夫



2年近く在籍していた東京農工大農学部に退学届けを出したのが、年の瀬迫る11月だった。

年が明けた1969年の1月に、安田講堂事件で東大の入試中止が決定されるという前代未聞の出来事が勃発し、退学という背水の陣を敷いて国立大医学部再挑戦を決めた私には、大きな打撃であった。

本来理系であった私が、何とかワセダの政経学部に入学できたのは、社会科学に代えて数学で受験できたということに尽きる。ワセダは好きな学校で、高等学院にも合格していたが都立高校を選んで、また迂回してワセダに戻ったことになる。私の祖父は、千葉薬専、早稲田、明治と3つの大学に通い、早稲田のみ学生運動で放校になって卒業できていない。父は、関西学院大学を中退し、東京芸大の音楽科を卒業している。

そういう家系なのかと思う。ともあれ、ワセダで青春を謳歌すべ

く、最初は体育会の射撃部に入部したが、タマ代などにとってもカネが掛かる部活であった。

加えて、2年生になると貸与を受けていた部の銃2丁（ライフル銃と、空気銃）は、新入生に譲らねばならず、自費で購入するのに、2丁合わせて50万円ほどを要す。

少々のバイトでは、買えるような金額ではなかった。

そこで、1年の終わり頃に、それまで独学でやっていた溪流釣りを極めるべく「釣りの会」に入会。

ハイライトは、「一千万人の釣り」というTV番組に慶応など数校の釣り部員とともに出演。

その中でも私だけが、ロケの後日にスタジオにも呼ばれてナレーションの収録に携わったことが楽しい思い出として残っている。

当時は、過激派の学生運動で休講が多く、卒業までに40回以上は合宿に参加。休講が多い早慶戦の時期も、早慶戦利用合宿なるものがあって、一度も早慶戦の応援には行ったことがない。

今では、世界自然遺産になって立ち入れないが、津軽の白神産地の赤石川で、それまで誰も到達していなかった最源流の滝壺まで行き、40センチ近い大イワナを釣ったのが、今でも自慢の思い出です。

(昭和48年政経)

『雨の中の青春』

越智 慎二郎



私が早稲田の門をくぐったのは1970年4月。東大受験に失敗し失意の中の入学であった。

人生の挫折というよりは教師や家族の期待に応えられなかったという申し訳なさで一杯だった。

しかも家業が傾いた実家の家計は火の車。二期校を受験するつもりでいたが、六畳一間のアパートで同居していた国大の兄から「大学は大きい方がいいよ」と背中を押されての入学だった。やはり同居部屋から東大に通うもう一人の兄を側で見ていたこともあるのだろう。

高校の頃から「貧富の差」に矛盾を感じ「学ぶなら経済学」と決め、「在野の精神」の早稲田で学ぶのも悪くないかと思いついて入学したものの、アルバイトに追われ勉強どころではなかった。

青春を謳歌する同級生は遠い存在としてしか映らず、時に聞く校歌や応援歌も「青春の謳歌」として疎ましさすら感じるようになっていった。

やがて同居していた二人の兄も卒業と同時にアパートを出て、日々の慰めは蒲団に入って読む本と読み疲れたら聴くラジオの深夜放送くらいであった。

そんな時にラジオから飛び込んできた歌が小椋佳の「しおさいの詩」だった。イントロの波の音と詞が故郷の瀬戸内への望郷の念と「満ち足りない青春」への思いと重なり、その夜は眠れないまま朝を迎えた。

それからというもののファーストアルバム「青春く砂漠の少年」を擦り切れるまで聴き込んだ。それでも飽き足りず、兄が残してくれたギターを爪弾きながら歌うことが一番の楽しみと慰めになるようになった。

そうこうしているうちに就職の時期を迎え、一時は子供の頃から頭の片隅にあった「新聞記者」を目指した。が、その門は狭く、早く就職を決めたいとの一念から同じ試験日の広告会社を就職先に選んだ。

就職が決まった日は「これでやっと貧困から解放される」との気持ちで沸き起こり、思わず口をついて出たのは小椋佳の「さらば青春」だった。

私にとつての「さらば青春」は「さらば貧乏暮らし」であり、「私の青春への葬送歌」となった。「雨の中の青春」は小椋佳のアルバムと同タイトル

(昭和49年政経)

サークル活動でより楽しい練稲ライフを!!

2019年10月現在、21のサークルがそれぞれ活発な活動を行っています。

お好きなサークルを探して、交友の輪をさらに広げてください。

令和元年10月改定(サークル推進チーム作成)

	サークル	部長	卒年	連絡先(Tel, Fax, Mail)	開催予定日
1	ゴルフ部会	栗原 英明	S40	3924-1119	年8回コンペ開催(日は未定)1、2、7、8月は交流塾開催
2	歴史ウォーキング部会	八巻 孝夫	S45	3997-5703	七福神巡り他、年間6回(1、3、5、9、11、12月)
3	旅行部会	藤沢 礎	S49	3867-2210	年間3回程度
4	麻雀部会	喜々津和夫	S43	3991-7085	奇数月の最終金曜日、年2回早慶戦、年2回近隣会、年1回温泉泊
5	囲碁部会	築山 哲	S41	6760-9579	毎月第3土曜日、年1回合宿、オール早稲田囲碁祭、春・秋豊島対校戦
6	グルメ会	持ち回り		事務局Fax 4243-2759	年2回程度
7	テニス部会(硬式)	武田 幸雄	S44	090-4434-3472	毎月1回(日は未定)、夏合宿(軽井沢泊)
8	エッセイ同好会	照山 忠利	S45	5387-5176	偶数月(第3土曜日)
9	ワセダスポーツを楽しむ会	小島 忠夫	S41	090-4606-4552	箱根駅伝、野球早慶戦、早明ラグビー、早慶レガッタ
10	カラオケ部会	土屋 正孝	S45	3929-9227	毎月・第3月曜日PM4:00~7:00、ジュニア部会年1回(土日)
11	山歩き会	石村 毅	S43	5241-1866	毎月1回・第1木曜日定例会
12	写真クラブ	岡田 吉郎	S35	090-5777-9215	毎月1回例会、年1回写真展
13	パソコン相談室	平田慎一郎	S45	事務局Fax 4243-2759	毎週木曜日(PM1:30~3:00)
14	酒案会	森 正治	S46	090-4361-6656	月末の最後の木曜日(年5回)PM5:00~7:00
15	釣り愛好会	松浦 康夫	S48	3904-2455	例会年4回(4、6、10、11月頃)、オフ会=随時
16	青年部会(参水会)	小野 惣一	S60	080-5385-5114	主要共通行事のない月の第3水曜日(年6回程度)
17	料理を楽しむ会	仲山 典美	S40	080-4357-8665	2、4、6、9、11月の第4月曜日
18	フォークソング愛好会	貞末 俊一	S49	090-4539-7009	毎月第1火曜日(PM1:00~3:00)
19	落語を楽しむ会(落案会)	土屋 正孝	S45	3929-9227	毎月1回(寄席鑑賞)
20	(未来塾)ほのぼの朗読教室	(講師) 小林 大輔	S40	事務局Fax 4243-2759 講師 080-2064-3050	毎月第3金曜日、第4火曜日
21	(未来塾)時代小説を読む会	(講師) 野火 迅	S56	事務局Fax 4243-2759	年2、3回

注) イベント募集案内、活動状況報告はHP (<http://nerima.waseda-info.com/>)、メルマガ、サークル通信をご覧ください。

お悔やみ申し上げます 酒井 和彦さん(昭和36年商卒) 令和元年4月29日ご逝去
淵上 貫之さん(昭和31年法卒) 令和元年11月19日ご逝去

開設15年になるHP。ここには当会の最新の活動がすべて集約されています。

<http://nerima.waseda-info.com/>

編集・発行: 広報チーム

照山 忠利 鈴木 奎三郎 岡田 吉郎 橋口 奈保

発行所: 〒176-0014 練馬区豊玉南3-24-18 国産自動車交通本社ビル 練馬稲門会事務局 TEL.070(3526)4179 FAX.03(4243)2759

いしざき内科

富士街道沿い 石神井庁舎南
石神井町3-30-20 TEL.(03)6913-3925

胃内視鏡検査
大腸カプセル内視鏡検査
超音波(腹部・甲状腺その他)
(賛助会員: 石崎 淳朗)